

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0195
岡山県倉敷市二子1200
E-mail kurashiki@nd-seishin.ac.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 0名 女子 747名 合計 747名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「心を清くし 愛の人になれ」を学校理念としているが、ESDの理念はノートルダム清心学園の理念と共通するものであると捉えている。ESDの実践を通して、自立した女性としてグローバル・リーダーとなるための資質等の育成を目標とした。

具体的には、SSH(Super Science High School)、SGHA(Super Global High School Associate)を柱に、①環境学習に係わる活動、②人権教育に係わる活動、③国際理解教育に係わる活動、④ユネスコスクールネットワークに係わる活動を行った。

① 環境学習に係わる活動

生物教室でサンショウウオやアカハライモリを飼育しながら、その産卵から成長していく様子を調べてまとめた。また、絶滅危惧種のデンジソウの栽培を年間を通して行い、学会や高校生対象の発表会等で発表した。花酵母の研究から木質バイオマスからエタノールを作る試みを研究し発表した。

② 人権教育に係わる活動

高校2年生文理コース生徒を対象に、「現代社会とジェンダー」等、女性に関わる問題をテーマに週2時間の授業を行った。テーマごとに姉妹校ノートルダム清心女子大学の講師が講義をした。文化祭では「赤ちゃんポスト」についてのディベートを公開した。授業を通して女性に対する諸問題に気づき、自分の問題として捉え、最終的には各自がテーマを絞ってプレゼンテーションをした。

③ 国際理解教育に係わる活動

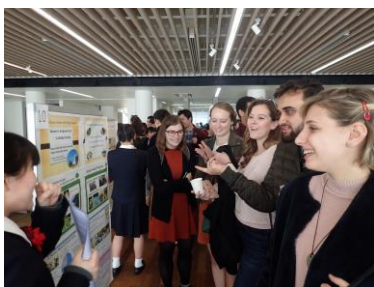
グローバル教育講演会を実施した。東京大学総合文化研究科語情報科学専攻准教授の板津木綿子先生に、午前中は高校生を対象に、午後は中学生を対象として、「グローバル社会に必要な力～中学生・高校生の時にやっておいてほしいこと～」という演題で講演をしていただいた。放課後は希望者を対象とした「グローバル・カフェ」を開催し、中学・高校生約20名が集まった。講師の先生の中学生・高校生の頃の学校生活や、海外経験、英語の学習、将来の夢を実現させるための工夫など多様な質問を通して、先生との交流を深めることができた。

④ ユネスコスクールネットワークに係わる学習

岡山県内のユネスコスクール10校の生徒約160名が集まり、交流会を行った。各学校での取り組みについて発表を行い、その後ワールドカフェのスタイルで、小グループ内でのディスカッションを行った。各学校での取り組みの成果を共有すると共に、それぞれの活動について、多くの生徒からフィードバックを得て改善点を考える契機となった。

「自然のめぐみ」「ESD」「持続可能な生産と消費」「エシカル消費」をテーマとした「いきものフェスタ」（岡山市ESD推進協議会主催）では、生物部の生徒が校内で飼育しているアカハライモリのことを多くの人に紹介した。

ユネスコみらいミーティング in 大分 2017 に参加した。九州を中心に、中国・四国地方から多くの高校生が集まり、大分県豊後大野市のジオパークでジオサイトを巡るフィールドワークに参加した。



ポスタープレゼンテーション



ユネスコスクール実践交流会



グローバル・カフェ



ユネスコスクール実践交流会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 SSH、SGHA の活動として)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての教育活動は多岐に渡るが、本校では特に(1)環境教育、(2)人権教育、(3)国際理解教育、(4)郷土・平和学習、(5)地域との連携（ボランティア活動）、(6)その他 ESD に関わる活動を、全校で取り組む行事と、中学校・高等学校の各学年で行う行事として年間行事の中に位置づけて取り組んでいる。また、ミッションスクールとしての特性を活かして、倫理宗教科の指導計画にもユネスコスクールとしての位置づけをしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

生命科学コースを主体とした環境学習、グローバル教育を主体とした国際理解教育、ノートルダム教育部を主体とした地域との連携事業（ボランティア活動）等を行っている。このように、学年ごとの取り組みにおいても、学校全体が組織として対応可能になっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートにおいて、生徒・保護者からのフィードバックを得ている。全体としてはSSHとしての活動、SGHAとしての活動を含め、学校教育活動全般に対して好意的な評価をいただいている。また、個別の行事や活動ごとに実施しているアンケート結果については、課題があれば、具体的な問題点としてフィードバックするように努めている。外部組織による評価については今後の検討課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

岡山県内のユネスコスクール高等学校が毎年実践交流会を開催している。そのための事前学習会を含め、複数回のミーティングを行う。各学校での取り組みを紹介したり、お互いに活動の問題点を指摘したりしながら活動を共有する機会とした。それぞれが特長のある活動を行っており、他校の意見を聴くことは大変良い機会となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

岡山県ユネスコスクールネットワークを組織し、岡山県生涯学習課、岡山市市民協働局 ESD 推進課等との連携をしている。また、上智大学、ノートルダム清心女子大学、岡山大学、広島大学、大阪府立大学等の高等教育機関との連携、岡山ユニセフ協会、慈善団体チャイルドファンドジャパン等との連携をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

岡山県内のユネスコスクール10校との連携。
ブルガリアのユネスコスクールとの交流プログラム。岡山市主催のプログラムとして、ブルガリアから生徒5名、教員2名をお迎えして交流会を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動においては、さまざまな場面において生徒が主体的に活動する機会が増えた。多くの参加者の前で、活動報告を行ったり、外国人ゲストをお迎えして、英語でプレゼンテーションを行ったりした。このような活動が一部の生徒だけの活動ではなく、また特異な行事でもなく、生徒や教職員にとって日常的な教育活動の一部になりつつある。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は、本校が岡山県ユネスコスクールネットワーク協議会の幹事校となる。11 月に予定されている 10 校による実践交流会に向けて、事前学習会等を企画・運営することとなる。岡山市との連携により、ブルガリアとの交流プログラムでは、平成 30 年度は岡山県内のユネスコスクールの高校生 10 名をブルガリアへ派遣することとなっている。また、校内での取り組みでは、SSH による環境学習や SGHA による人権教育、平和教育、さらに国際理解教育の一層の推進を行う。多様な教育活動が各学年や部署において年間を通して実践されており、その成果は学会での発表、コンテスト等でも高い評価を得ている。しかし、それら個々の活動が個別の活動で終わることなく、お互いに連携し体系化することで、より効果的な成果を生み出すことができるように学校として取り組みたい。